

松葉園 ～リハビリ通信～

平成28年4月号

松葉園では、理学療法士常勤2名体制で、利用者様や入居者さまの身体や生活を支援しています。

些細なことでも、ご相談ください♪



～今月のリハビリ風景～

馴染みの仲間と一緒に体操するから、楽しい！声を出すのも気持ちがいいな。

体を起こして、肩の力を抜いてください。

どうしても、力が入ってしまう・・・。



リハビリ小話
認知症シリーズ②

今月は、認知症の方の感情を読み取る能力についてお話します。認知症になると、他人の表情から感情を読み取る能力が低下します。ある文献では、進化したアルツハイマー型認知症の方に様々な表情の写真を見せ、「どのような表情か」を答えてもらう実験をしています。実験の結果、怒った顔や驚いた顔、真顔などの表情では正答率が低く、笑顔のみ正答率が高かったことから、認知症が進行しても、大部分の人が笑顔を認識できていると言えます。

また、認知症の方は、進行に伴い、分からないことが増え、出来ることが減ってしまうことを日常的に体験しています。分からないという強い不安を感じやすいので、認知症の方と接する時には、笑顔で話しかけましょう。真顔ですと、表情が読み取りにくく、相手の感情が分からないので不安を感じやすいです。不安になると、行動として不穏と言われる状態になってしまうこともあります。認知症の感情を読み取る能力を理解し、笑顔で接することで、安心感が得られやすいと言われています。

※「リハビリ小話」では、健康や介護に役立つ、ちょっとした知識をリハビリの視点からご紹介します。